



華となれ

宮城県仙台二華中学校
令和5年度学校だより第13号
【発行日】 令和6年1月15日
【連絡先】 022-296-8101
【文責】 副校長 武田 誠

【校訓】 『進取創造』『至誠貢献』

【教育方針】 豊かな心と高い知性を持ち、進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして、わが国や世界の発展に貢献できる人間を育成する。

※題字「華となれ」には、社会に貢献できる真のリーダー（華＝社会の中心）となってほしいという願いを込めています。

「晴れと褻を改めて考えよう～禍福はあざなえる縄のごとし～」(要約)

令和6年1月10日 開講式 校長 佐藤 弘人

皆さん今年もよろしくお祈りします。そして皆さんの活躍をこれからも期待しています。

最初に一つ報告があります。この1月より事務室職員として、下山邦彦さんが着任されています。事務室での各種手続きや学校全体の運営にお力を発揮いただきます。紹介しておきます。

冬休み期間中、年末にはメコン川フィールドワークの15名が2週間近くの調査を終えて帰国しました。また大学の研究室とともに大阪での調査に出かけた生徒もいました。2月には全校生徒がプレゼンをする課題研究発表会があります。楽しみにしています。また発表会では全校生徒が研修や研修旅行の報告発表も含め、水問題解決に向けた課題研究にどのようにアプローチをしたか知ることができます。合わせて期待しています。

さて、私の個人的感想を多く含みますが、年末は、除夜の鐘の音も聞こえ、天候も穏やかで初日の出も見て、初詣へも出かけやすい気温の中で出かけることができ、年賀状も見ながら、いい年越と昇り龍をイメージできる辰年の始まりだと思えました。ところが夕方、能登半島で地震が発生し、宮城県でも地震注意のメールが流れ震度2や3くらいで揺れました。メールが流れてから少々時間が経ってからの揺れでゆっくり長く揺れたので、宮城からは離れた場所が震源であり、大きな地震であることが推測できました。

先程皆さんとともに、今回の震災で亡くなられた方への黙祷をお願いしました。雪が心配される地域でもあります。被災状況はまだまだ深刻になる可能性があります。皆さんは東日本大震災を経験しています。記憶が薄れてきている人もいるでしょう。ただ、その復興には多くの支援があり、何年もかけて一步一步日常を取り戻してきた姿を思い起こすことができるはずで、そして、原子力発電所の課題は解決には今後何年もかかると推測されます。また、沿岸部で被災した人は、揺れの怖さと残酷さと同時に津波の被害を心に刻んでいることなのでしょう。能登の地震は正月だったこともあり、家族や親戚とも震災について話す機会も多かったことなのでしょう。その中には13年前の震災の他にこれまでの津波被害や、新潟地震、宮城県沖地震、阪神大震災、熊本地震などの経験が語られたことと思います。もしかしたら100年前の関東大震災が語られた家庭もあるのではないのでしょうか。

今後、生徒会やJRCの皆さんを出発点として被災地や被災された方に二華校として何ができるか、また私たちは普段から自然や自然災害とどう向き合うべきか意見や考え方を聞きたいと思えます。

また、正月2日には自然災害ではありませんでしたが、航空機事故もありました。度重なる衝撃的な映像からは、不安とこの科学技術万能と思える便利な社会への恐ろしさなどの気持ちに覆われたのではないのでしょうか。改めて考えれば、ここ数年は勿論ですが、長い歴史の中で、私たちは感染症と闘ってきて、これからも闘い続けるのだらうということも心に刻んだばかりです。高度な科学技術は自然の振る舞いを利用し、時には克服すべきものとして捉えてきた関係もみえてきます。それ故に繰り返す自然災害に対して、今、自分に何ができるのか、自然の大いなる力や高度な科学技術を前に、焦りやそれ以上の虚しさを感じる人もいます。

ここで、この機会の一つ考えておきたいことがあります。私たちは幸せを願い、日常の穏やかな生活や平穏な心の状態を求めているとしましょう。日常とは穏やかで豊かな日々であると私たちは思っているのですが、この10日間の出来事で、人間の日常は自然に翻弄され、黙っていたら命ははかなく消えてしまう存在であることに気付くことになりました。日常自体が危ういものであるという意味です。このことは、中学校の社会や高校の公共や倫理の授業で「晴れ(ハレ)と褻(ケ)」として出てきます。この「ハレ」と「ケ」は何を意味するかイメージできますか？教科書には古来日本人は、普段である日常が「ケ」で、正月・成人式などのお祭りなどを待ち望んだ特別な日となる非日常が「ハレ」と考え生活してきたと示されています。何気ない日常は「ケ(褻)」です。仏

教でみると「一切皆苦」この世で生きている限り「苦」の連続であるとも解釈しています。合わせて考えると、歴史的に見て日本人は、厳しい日常生活を耐えて、やっと「ハレの日」を楽しみ、区切りをつけていく生き方をしてきたのではないかとことです。

ところが今の私たちの生活は、科学技術を発展させ豊かな生活を謳歌しています。まさに「ハレ」が続くことが日常になっています。「ケ」とも言える厳しい日常はどんどん遠ざけてきました。しかし、日常はそんなに甘くなく、科学技術を高め、自然を克服しようとしてきた私たちは、それを上回る自然の力を感じたり、感染症が広がったり、科学技術の歯車が少しズレただけで大事故となったり、紛争も世界各地で起きていて、簡単に命を失ってしまったりする可能性がある「はかない存在」になってます。このような状態に直面してはじめて「ケ」を感じています。私たちの現代の生活は日常が「ハレ」、非日常が「ケ」になっているという意味です。言い換えれば、私たちは求めて「ケ」に対して科学技術などを発展させ、どんどん「ハレ（晴れ）」にし、時折顔を出す災害・事故などの「ケ」となる出来事に非日常、滅多にないことを感じて不安や焦りを強く感じるのかも知れません。

ここで、皆さんへ提案です。日常は「ハレ」ではなく、自然の大きな力の前に謙虚に「ケ」であることを自覚し、穏やかで幸せを感じる非日常の「ハレ」の日を目指して日々精一杯生きよう、自然の中で生きる私たちは、自然の大きな力の前ではもっと謙虚になり、厳しい日常を耐えて、「ハレ」の日を迎えましょうということです。



どうでしょう、校長先生の頭の中では、人生はオセロゲームのような怖さと楽しみがあるとイメージしています。一つのマス目に白又は黒の石が入ることで、連なる多くの石の色が変わる。勿論人生は白と黒の2色しかないわけではないですが、たった一手とも言える一つの出来事でガラッと様相が変わる、「ハレ」が優勢でも「ケ」へ一瞬に変わる。逆に「ケ」が優勢な中でいつの日か一つの「ハレ」で局面が変わる。ですから、今多くの人が不安や、虚しさを感じているかも知れませんが、どこかで「ハレの目」を入れていきたいものです。誰かが「ハレの目」を入れてくれると頼るのではなく、皆さん一人一人が「ハレの目」を入れることも期待しています。



最後に、「禍福はあざなえる縄のごとし」という中国のことわざがあります。

今回の話が、気になったらこの言葉を読み解いてみてください。生き方を考える手がかりになるかも知れませんが、私も、「ケ」の日常に「ハレ」の目を打てるように心がけます。

受験を控えた高校3年生は、すでに毎日が「ケ」の連続だよと言うかも知れませんが、そうです、人生は厳しく苦しいのです。ここを耐えた先に「ハレ」をつかみ取ってください。高校2年生から中学1年生は、学年の☆、まとめ、です。今の学年をやりきり、次の学年の準備ができるように心がけてください。

10日（水）に開講式が行われ、冬休み明けの授業が始まりました。開講式のあとは、課題テストを実施しました。正月気分を切り替え、熱心に問題に取り組む姿を頼もしく思いました。

現在、1階の廊下には高校書道部の新年の作品（左下）が飾られています。書道部は、廊下の展示スペースを使って、その時節に合わせた作品を展示する活動をしています。中学書道部の作品（右下）も、新年を祝うすばらしい作品です。力強い運筆からは、中学生らしい思い切りの良さや、躍動感が感じられます。

二華中にとって、今年も躍進の年となるようにしていきたいと思えます。保護者の皆様の変わらぬ御支援を、本年もよろしくお願い申し上げます。



2024年は甲辰（きのえたつ）の年です。甲の文字には、草木の成長を表し、植物がどんどん成長するように勢いを増す、次々に増えていくといった意味があるようです。また、第1位、優勢、まっすぐに堂々と立つ大木などの意味ももっているそうです。甲辰年は、これまで地道に努力してきたことが結実し、大願成就する縁起のよい年と考えられています。辰年も努力を継続することにより、スピード感を持って成功や達成に近付くことができる年にしていきたいものです。

